

年間第 25 主日 9 月 19 日分かち合い

コロナ禍でのオリンピック、そして、パラリンピックが終わり、去年の春からずっと悩まされてきた新型コロナウイルス感染症も、ようやく収束が近づいてきたような印象をもちます。山口県内の教会(広島教区)では、今日から、公開ミサを捧げることができるようになりました。

今日の典礼は、イエスが自ら受けようとしておられる苦しみと死についてはじめて予告された後、神々しい光に包まれた姿を垣間見せた変容の出来事の後、再び、自分が苦しみにあい、十字架にかけられて死ぬことを明言されたことを記します。しかし、弟子たちは、最初の予告の時にイエスの言葉を素直に受け止められなかったように、「この言葉がわからなかったが、怖くて尋ねられなかった」と、マルコは記しています。

そして、弟子たちは、イエスの思いを受け止められなかっただけでなく、まったく正反対とも思える行動に出ます。自分たちの間で、だれが一番偉いのかということで議論をしていたのです。この人間的な思いは、イエスの受難が近づいた時にも、使徒たちの間で再度現れてきます。しかし、イエスは彼らの思いを批判するのではなく、優しく諭されます、「いちばん先になりたいものは、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」と。今、自民党総裁選挙に立候補された方々は、立派な目標を掲げて、党のトップ、ひいては、日本の最高指導者として立つことを目指して戦っておられます。それぞれの目標は素晴らしいものですが、誰一人として、すべての国民に仕えるということ掲げる人はおりません。むしろ社会全体が直面している喫緊の課題、また、国民が期待していることに応える政策を打ち出すことに専念しておられます。

イエスが「仕える者になる」というとき、何を意味しておられたのでしょうか。昔、イスラエルにも王がおりました。周辺の強国に立ち向かうことのできる、しっかりした軍事力を備え、民を力で支配しようとする王もおりました。あくまで、イスラエルを導かれた神を敬い、その教えに従って生きることを選んだ王もおりました。イエスが、求めておられた「仕える者」とは、皆の後に立ち、皆を支え、奉仕するリーダーの姿でした。それを教えるために、イエスは、すぐに「子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。わたしの名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」と、言われました。

イエスが言われる「子どもを受け入れる」と言うことは、文字通りの小さな子供だけでなく、人々から、小さなもの、力のないもの、忘れられるもの、差別されるもの、軽蔑され、無視されるもの、そのような存在を大事に思い、しっかりと心を向ける、彼らの世話をすることです。それは、イエス自身がそう言われたように、当時の社会で低く見られていた羊飼いの役割を担うこと、牧者の使命に徹することを意味します。イエスは、まさに、そのような人々を大事にし、あえて近づき、慰め、癒し、力づけ、あらたな命を授けられました。そして、弟子たちにも、同じような心をもって生きることが望んでおられたのです。

今日は、明日の「敬老の日」に因んで、教会の高齢の方々のために特別にお祈りする日です。長い年月を生きてこられた先輩方は、それぞれ豊かな人生経験を積んでこられたと思います。喜ばしいこと、楽しいこともたくさんおありだったでしょう。同時に、つらいこと、悲しいことも経験されたと思います。子どもさんや家族の方々の世話をされ、苦しみの中にも生きがいを感じてこられ

たことでしょう。同時に、報われない、損な役回りを演じてきたと振り返って思われる方もあるかもしれません。自分のことよりも、家族のこと、人々のことを第一に考え、身を粉にして働き、自分のためには、何も残っていない、と思われる方がいる方もいるかもしれません。今、まさに、小さなもの、顧みられないもの、忘れられたものとして、晩年を過ごしていると感じておられる方もいると思います。そのような高齢者のことを大切にしようという思いは、歴代教皇の中にもありました。しかし、フランシスコ教皇は、その思いを強くされ、今年5月、毎年7月の第四主日を「祖父母と高齢者のための世界祈願日」とすることを決定されました。当教会の高齢者の方々には、今年祈願日のために用意された教皇のメッセージをお送りしました。そこには、高齢者に対する深い尊敬と慈しみの心が溢れていますので、是非、目を通していただきたいと思います。その中の一点だけ、最後に紹介します。

教皇フランシスコは高齢者に期待したいこととして、夢、記憶、祈りの三つの柱をあげ、夢についてこう言われます、「『老人は夢を見、若者は幻(ビジョン)を見る(ヨエル 3.1)』。世界の未来は、若者と老人のこうした結びつきにあります。若者のほかに、いったいだれが老人たちの夢を受け継ぎ、それを推し進めることができるでしょうか。しかしそのためには夢を見ることが必要です。正義、平和、連帯を求めるわたしたちの夢の中に、若者たちが新たな幻をもつ可能性が秘められており、わたしたちはともに未来を築けるのです」と。

また、祈りについて、こう言われます、「あなたの祈りは、価値ある資源なのです。教会と世界がそれなしではいられない『肺』なのです。人類にとって困難なこの時期にこそ、全員が同じ船に乗り、パンデミックという嵐の海を行く中であって、世界と教会のためのあなたの執り成しの祈りはむなしいものではなく、むしろすべての人に、到着地についての揺るぎない確信を示してくれます」と。

わたしたちの集いが、多くの高齢者によって豊かにされ、祈りに支えられていることを感謝しながら、主が彼らの日々を豊かな恵みで満たしてくださるよう祈りましょう。(S.T.)